

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	水酸化カルシウム
製品コード	E2-17
整理番号	E2-17-4
供給者の会社名	林 純薬工業株式会社
住所	大阪府大阪市中央区内平野町3丁目2番12号
担当部門	環境・品質保証部
電話番号	06-6910-7305
FAX番号	06-6910-7300
緊急連絡電話番号	06-6910-7305
URL	http://www.hpc-j.co.jp/

2. 危険有害性の要約

GHS分類	
物理化学的危険性	可燃性固体 区分外 自然発火性固体 区分外 自己発熱性化学品 区分外 水反応可燃性化学品 区分外
健康有害性	急性毒性(経口) 区分外 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分1 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(呼吸器) 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険有害性情報

危険
H315 皮膚刺激
H318 重篤な眼の損傷
H370 呼吸器系の障害

注意書き 安全対策

粉じん、ヒュームを吸入しないこと。(P260)

取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。(P302+P352)

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)

ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。(P308+P311)

直ちに医師に連絡すること。(P310)

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。(P332+P313)

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。(P362+P364)

応急措置

保管 施錠して保管すること。(P405)
 廃棄 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 化学物質
 化学名又は一般名 消石灰

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
水酸化カルシウム	95.0%以上	Ca(OH) ₂	1-181		1305-62-0

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

労働安全衛生法 名称等を通知すべき危険物及び 水酸化カルシウム(法令指定番号:317)
 有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

4. 応急措置

吸入した場合 空気の新鮮な場所に移し、安楽に待機させ、窮屈な衣服部分を緩めてやる。
 医師の手当、診断を受けること。

皮膚に付着した場合 汚染した衣服、靴、靴下を脱がせ遠ざける。接触した身体部位を多量の水と石鹼で洗うこと。
 医師の手当、診断を受けること。

眼に入った場合 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 医師の手当、診断を受けること。

飲み込んだ場合 直ちに多量の水を飲ませる。
 口をすすぐこと。
 医師の手当、診断を受けること。

5. 火災時の措置

消火剤 水噴霧,粉末消火薬剤,二酸化炭素,泡消火薬剤,乾燥砂
 使ってはならない消火剤 高圧棒状放水
 特有の危険有害性 不燃性であるが、火災時に刺激性もしくは有毒なフェームまたはガスを発生する。
 特有の消火方法 周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
 移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。
 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に消火する。
 消火を行う者の保護 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
 関係者以外は近づけない。
 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
 作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な保護具を着用し、風下で作業を行わない。

環境に対する注意事項 汚染された排水等が適切に処理されずに環境に排出しないように注意する。
 封じ込め及び浄化の方法及び機材 漏出物は、粉塵を発生させないように注意し、できるだけ掃き集めて密閉できる空容器に回収し、安全な場所に移動する。
 回収跡は多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
 技術的対策 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。

安全取扱注意事項	<p>長時間または反復の暴露を避ける。</p> <p>漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。</p> <p>作業後は容器を密栓し、うがい手洗いを十分にする。</p> <p>取り扱う場合は局所排気内、又は全体換気の設備のある場所で取り扱う。</p> <p>周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。</p> <p>火気注意。</p> <p>排気用の換気を行うこと。</p> <p>接触、吸入又は飲み込まないこと。</p> <p>眼、皮膚、衣服との接触を避ける。</p> <p>取扱い後はよく手を洗うこと。</p>
保管	
安全な保管条件	<p>施錠して保管すること。</p> <p>直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。</p>
安全な容器包装材料	気密容器

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
水酸化カルシウム	設定されていない		TWA 5mg/m ³ , STEL -

設備対策 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

呼吸器の保護具	防塵マスク、保護マスク、自給式呼吸器(火災時)。
手の保護具	保護手袋
眼の保護具	保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具	保護服、保護長靴、保護前掛け。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状态	固体
形状	粉末
色	白色
臭い	無臭
臭いのしきい(閾)値	データなし
pH	水溶液は強塩基性
融点・凝固点	580℃(分解)
沸点、初留点及び沸騰範囲	情報なし
引火点	データなし
蒸発速度	情報なし
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	情報なし
比重(密度)	2.07g/cm ³ (20℃)
溶解度	水;0.17%(20℃)。グリセリンに可溶、アルコールに不溶。
動粘性率	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学安定性	空気中の二酸化炭素を吸収して、炭酸カルシウムになる。加熱すると分解し、酸化カルシウムを生じる。

危険有害反応可能性	酸類と反応し発熱する。強酸化剤と反応する。水の存在下で、多くの金属を侵し、引火性/爆発性のガス(水素)を生成する。
避けるべき条件	日光、高温物。火花、裸火、静電気等の発火源。強酸化剤、酸類との接触。水の存在下で、多くの金属を侵す。
混触危険物質	強酸化剤、酸類。
危険有害な分解生成物	酸化カルシウム。
11. 有害性情報	
急性毒性:経口	ラットのLD ₅₀ 値として、7,340mg/kgとの報告(ACGIH(7th, 2001)、HSDB (Access on September 2014))に基づき、区分外とした。
急性毒性:吸入(気体、蒸気)	GHSの定義における固体である。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	本物質は強塩基性物質(pH 10.9-11.9 (EPA Pesticide(2005)))であり、身体表面に中等度の腐食又は刺激作用を持つとの記載がある(ACGIH(7th, 2001))。また、本物質はヒトの皮膚に対して中等度の刺激性を示すとの記載(IUCLID (2000))や、軽度の刺激性を示す(EPA Pesticide(2005))との記載がある。以上の情報から、本物質は強塩基性物質であるが、皮膚への影響は「中等度又は軽度」との記載から、区分2とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	本物質は強塩基性物質(pH 10.9-11.9 (EPA Pesticide(2005)))であり、身体表面に中等度の腐食又は刺激作用を持つとの記載がある(ACGIH(7th, 2001))。また、本物質は眼に対して腐食性を示す(IUCLID (2000))との報告や、非可逆的な傷害を与える(EPA Pesticide(2005))との記載がある。以上の結果から、区分1とした。
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。In vivoデータはなく、in vitroでは、哺乳類及びヒト培養細胞を用いるコメットアッセイで陰性である(HSDB (Access on September 2014))。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	本物質のデータは限られているが、ヒトに気道刺激性、粘膜腐食性があり、咳、粘膜の火傷、肺水腫、嘔吐、胃痙攣を引き起こすとの報告がある(ACGIH(7th, 2001)、EPA Pesticide(2005)、HSDB(Access on September 2014))。実験動物のデータはない。以上より、ヒトの気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記載があることから、区分1(呼吸器)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	本物質は慢性的な経口摂取により、口腔内及び消化管への刺激による炎症性、又は潰瘍性変化を生じることがある(HSDB(Access on September 2014))との記述、並びにラットに3ヶ月間飲水投与した試験において、肝臓、腎臓、胃に萎縮性変化、小腸に炎症がみられた(IUCLID(2000))との記述があるが、投与量を含め詳細が不明で分類に利用できない。すなわち、データ不足のため分類できない。なお、本物質は米国FDAでGRAS (Generally Recognized As Safe) 物質に認定されており、添加物としての食品への通常使用においては安全性が確立している(EPA RED(2005))。また、旧分類はList 2 の情報源を基に区分2(肺)と分類されたが、今回のList 2 の情報源(HSDB、IUCLID)からは「呼吸器系」を標的臓器とする影響は急性ばく露影響(ヒトで吸入により上気道の不快感、咳、胸痛、粘膜の化学性火傷、肺水腫を生じることがある(HSDB(Access on September 2014))としては確認できたが、反復ばく露影響として分類する根拠は乏しいと判断した。
12. 環境影響情報	
環境有害性	情報なし
オゾン層への有害性	データなし
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国際規制	
海上規制情報	該当しない
UN No.	該当しない

Marine Pollutant	Not applicable
Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II ,and the IBC code	Not applicable
航空規制情報	該当しない
UN No.	該当しない
国内規制	
陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	該当しない
国連番号	該当しない
海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 附属書II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
航空規制情報	該当しない
国連番号	該当しない
特別安全対策	運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。
15. 適用法令	
労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項
16. その他の情報	
参考文献	国際化学物質安全性カード(ICSC) 16716の化学商品(化学工業日報社) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 The Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH
その他	当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。 現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。 当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。 当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させていただきます。 国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。 このSDSは林 純薬工業株式会社の著作物です。 当該物質の日本語によるSDSと他国言語にて翻訳されたSDSが存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。